

関西圏地盤情報データベース研究利用報告書

研究課題	埋没堀の探査による城郭縄張復元（旧二条城跡・伏見指月城跡）		
研究者	京都府教育庁指導部文化財保護課 主査 古川 匠		
研究期間	令和 2 年 12 月 ～ 令和 3 年 12 月	報告日	令和 3 年 12 月 16 日
<p>研究目的：</p> <p>歴史都市・京都では戦国時代から江戸時代にかけて支配者の交代を経験しており、織田信長が築城し足利義昭が居住した旧二条城、豊臣秀吉が築城した聚楽第、伏見指月城は、廃城後に堀が埋め立てられ、その実情がよくわからなくなっている。申請者を中心とするグループは表面波探査法によって未発見の堀を検出することに成功し、聚楽第跡についてはその成果を報告してきた。そして、2018 年度から 2019 年度にかけては、京都大学防災研究所の共同研究で伏見指月城跡と旧二条城跡の表面波探査を実施した。表面波探査の精度はボーリングデータの精度には及ばないため、ボーリングデータベースを利用し、データの補完を図りたい。</p> <p>研究内容と成果：</p> <p>指月城跡近隣のボーリングデータと、既存の発掘調査、表面波探査結果を組み合わせ、城中心部の復元案を提示した。この結果は京都市文化財保護課刊行の報告書に論考として掲載した。</p> <p>旧二条城跡についても同様の分析を実施した。この結果は学術雑誌の古代学研究に投稿し、査読を通過している。掲載誌の刊行は来年の予定である。</p> <p>いずれの城跡でも、既存の発掘調査データだけでは不可能なレベルで復元案を提示し、さらに今後の検証も十分に可能なボーリングデータ、表面波探査データを掲載し、論文として刊行することができた。</p> <p>公開資料（論文等）：</p> <p>古川 匠2021「指月城跡の表面波探査」『指月城跡・伏見城跡発掘調査総括報告書』京都市文化市民局</p> <p>古川 匠・釜井俊孝・坂本俊2022「旧二条城の復元研究－表面波探査法による－」『古代学研究』（掲載予定・号数未定）</p>			

※貸出期間終了後、研究利用報告書（本様式）と研究成果（論文等）を提出してください。

※研究利用報告書は、KG-NET の HP で公開します。